



## 令和2年度学校教育目標

「ふるさとと人を愛し、自らの夢に向かって、力強く歩み続ける子どもの育成」

## 働くことについて考えよう

2年1組で行われていた道徳の授業を紹介します。「いま、ぼくにできること」という教材が使われていました。

東日本大震災の後、多くの人への感謝の思いがあふれてきた「ぼく」は、避難所での手伝いを始めます。被災した児童のたくましい姿と地域のために役に立ちたいという思いややりがいに共感することで、働くことの大切さを感じることができる教材です。



初めに、津波や同じ場所が1年後にどうなっていたのか写真が提示されました。子どもたちは「えー。」と素直に驚きます。平成23年の出来事で、2年生はまだ生まれていません。

お話を聞きながら、みんなのために働きながら、みんなから喜ばれている「ぼく」の気持ちを考えました。

- ・ ありがとうとたくさん言われてうれしい
- ・ もっと「ありがとう」と言われるようにがんばりたい。
- ・ もっとお手伝いがしたい。 ・ 働くことがうれしい。

みんなのために頑張ろうという「ぼく」の気持ちにしっかり共感しています。

さらに、ぼくは、作文の中でこんなことを書いています。「ありがとう」の宿題はぼくは大人になるまで続きます。この時のぼくの気持ちをみんなで考えます。先生の指示があると、みんな一斉に自分の考えをワークシートに書くことができました。何を書いていいか悩んだり、書けない子どもはいませんでした。全員がしっかり集中して考える力が身に付いていることが分かります。子どもたちは以下のようなことを発表しました。

- ・ みんなの役に立ちたい。 ・ 優しい人になりたい。助けたい。 ・ うれしい。
- ・ 次はぼくが助けたい。 ・ みんなにありがとうと言ってもらいたい。
- ・ できることをしよう。 ・ ありがとうと言ってくれることをしたい。
- ・ がんばってほしい。 ・ これからも働きたい。

主人公の気持ちにより添いながら素直に考えているなあと感心しました。

この後は自分を振り返るとともに、説話を聞いたりして意欲化、心をあたためる時間になります。ここでも、子どもたちは働いて良かったことやうれしかったことをたくさん紹介しようと意欲満々です。

最後の説話の時間は、ご家庭からのお手伝い大作戦のときのコメントや担任からのコメントを紹介して終わりとなりました。お手伝いをしたときの家の人からの感謝の言葉を聞いて子どもたちはうれしそうにいました。

担任からも係活動、日直、給食の時、生活場面等いろいろな場面で子どもたちが働いていることの紹介や感謝の言葉がありました。ここでも子どもたちはとてもうれしそうにいました。

子どもたちが素直にしっかり育っていることが分かる道徳の時間でした。

